

(参考)

新旧対照表

(ノロウイルスに係るリスクプロファイルの主な変更点)

修正箇所	新 (2019年11月27日)	旧 (2018年11月20日)
P12 L10-L14	5,000 ppm の次亜塩素酸ナトリウム溶液(次亜塩素酸ナトリウム濃度6%の市販塩素系漂白剤を希釈して調製)中で1分間(室温)反応させ、未処理の対照群と遺伝子コピー数の変化を比較した結果、50 ppm 以上の次亜塩素酸ナトリウム溶液の処理により、上述のウイルス株は完全に不活化された。なお、次亜塩素酸ナトリウム溶液による不活化効果については	5,000 ppm となるように次亜塩素酸水で1分間(室温)処理し、未処理の対照群と遺伝子コピー数の変化を比較した結果、50 ppm 以上の次亜塩素酸水の処理により、上述のウイルス株は完全に不活化された。なお、次亜塩素酸処理による不活化効果については

注： P；ページ数、L；行（修正箇所は、第721回会合資料におけるページ数）